

様式(細則 5-2)

令和 4年 6月 16 日

浜田市議会議長

範口 真 様

議員名 牛久 昭

調査研究活動報告書

研修

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 4年 6月 6 日 ~ 6月 6 日

2. ^{研修}視察内容 日本の農山漁村の今と未来について。

3. ^{研修}視察先 スマート・テクノロジー協会。

4. 調査経費 (000 円

(経費内訳 1000 円、 — 円)

5. 調査研究活動の概要

別紙にて。



研修先、スマート・テロワール協会

目的、「今こそ自立する村へ」改革は、辺境から。

農村にこそ、日本最後の成長余力がある。

期間、令和4年6月6日。オンライン研修会。

司会・進行：藻谷浩介氏。

講師；山田泰司氏；日本で最も美しい村連合資格員。

カルビー元会長松尾雅彦氏の教えから～信長は、楽市楽座を

作った日本の重商主義の始祖である。徳川家康は、秀吉の重

商主義をストップした。世界で「最も美しい村」発祥の地は

フランスのコロンジュ・ラ・ルージュである—日本の農村へ

の危機感—仏の最も美しい村—最も美しい村は、最も幸せな

村でありたい。—地域の自立は、真・善・美

平成の大合併—自立するなら国に頼らない地域経営を。

①住民の自主的活動—楽しい村づくり

②経済的自立———美味しい村づくり

③世襲財産———美しい村づくり

問いを立て原因の探索

人口減少—原因は少子化はほんとうか？・日本を3分、層別

にしてバラつきを見える化。・大都市では、子供の過剰、農村部では、子供の減少。食料自給率は（1965年）73%－（2000年）40%、かくして、不都合な現実がつぎつぎ生じた。

経済分析

大都市、農村部、中間部と分けると、農山漁村が日本の成長分野である。3つのボタンのかけ違い①1970年代に先進国で起こった一受給構造の逆転②大量生産のメリットは、消失一最少規模の経営③農業で反収は、永遠に増収をつつける。一農地維持が最重要・人口減を止め、貿易収支の改善は「農村の元気がカギ」・本当の原因は農村の雇用不足「向都離村」である。雇用の減少の原因は、「過剰な水田」輸入原料による加工食品の増加。過剰な水田100万haを畑地に転換すれば、12兆円の生産出荷が可能。貿易赤字は、1,5兆円の削減。一石三鳥の秘策を以下に述べる。

K・ポラニー（大転換）経済原論：4つの経済

①市場型一交換・・・不特定多数の交換、レッドオーシャン、株式市場公設市場（JAが農民を困窮させる要因）、、、、、、、

②非市場型—互酬・・・契約栽培・地消地産（域内流通重視）・

地域主権ONE to ONE・産直・ブルーオーシャン

—再配分・・・国・行政組織で財の移動管理・税金・公共投資

—家政・・・・・自給自足（兼業農家の稲作）

・「全体最適」を描ける自給圏の形成

エリアのゾーニングをし、家政と互酬を取り込み、全体最適を目指す。自給開発の対象：「食」・「住」・「電力」—海外資源で攻撃されている分野で、自給力の改善が必要。

・置換で成功する：マーケティング戦略を明確にする。たとえば「地産池消」という大義を持っていても、域内消費者を顧客とする「マーケティング戦略」を持たなければ、置換は成功出来ない。「瑞穂の国」から脱却し、「五穀豊穡」を取り戻す。

考察：牛尾昭

現在の日本の食生活は、水稻よりも、麦を食べているとのことである。麦価格の高騰を考えれば、もっと麦を作付けすべきである。一方で、水稻の耕作が易しい観点からすれば、米から米粉をつくり、東南アジアのように、フォーやビーフン

という食文化の転換を目指すべきと思う。いずれにしても、食料の安全保障を考えると、米の多様な食し方を検討すべき時期に来ている。